

基調講演登壇者・パネルディスカッションコメンテーター



筑波大学名誉教授
稲葉 信子氏
いなば のぶこ

国際機関ICCROM事務局長特別アドバイザー。工学博士。専門は建築学・世界遺産学。1991～2002文化庁文化財保護部建造物課(うち2000-2002国際機関ICCROM派遣)、2002-2008独立行政法人東京文化財研究所文化遺産国際協力センター、2008-2019筑波大学大学院世界遺産専攻。世界遺産については、日本が世界遺産条約を批准した1992年からユネスコ世界遺産委員会での条約運営に関わる総合的な議論、個別の世界遺産の登録、保全のための仕事に国内外で関わってきている。

講演登壇者・パネルディスカッションパネリスト



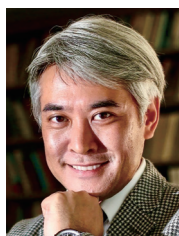
京都女子大学教授
母利 美和氏
もり よしかず

専門は近世藩政史、幕末政治史。同志社大学文学部、同大学院文学研究科を経て、昭和60年より彦根市教育委員会博物館建設準備室技術員、彦根城博物館学芸員を経て、平成15年より京都女子大学文学部助教授、平成20年より現職。主な著書に『井伊直弼の茶の湯』『安政の大獄の真実』『江戸時代近江の商いと暮らし 湖国の歴史資料を読む』など。



東京大学教授
杉山 清彦氏
すぎやま きよひこ

1972年生まれ、兵庫県出身。専門は東洋史学。江戸時代と同時代である大清帝国(清朝)の歴史を、満洲語史料を用いて描き直すことに取り組んでおり、日・清両国の近世権力をともに武人政権ととらえる見方を提唱している。大阪大学文学部卒業・同大学院文学研究科修了、博士(文学)。駒澤大学文学部准教授、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部准教授などを経て、2022年から現職。主な著書に『大清帝国の形成と八旗制』、共著に『清朝とは何か』など。



大阪大学教授
古谷 大輔氏
ふるや だいすけ

1971年生まれ、茨城県出身。専門は西洋史学。北欧の様々な国家がスウェーデン王の保護下で「礫岩」のようにまとまった「バルト海帝国」を例に、17～18世紀ヨーロッパの国家を「礫岩国家」ととらえる見方を提唱している。東京大学文学部卒業、同大学院人文社会系研究科修了。大阪外国語大学准教授、大阪大学大学院言語文化研究科准教授などを経て、2022年から同人文科学研究科教授。共著に『礫岩のようなヨーロッパ』、『論点・西洋史学』など。

パネルディスカッションコーディネーター



関西国際大学教授
京都府立大学名誉教授
宗田 好史氏
むねた よしふみ

浜松市生まれ。法政大学大学院修士、ピサ大学、ローマ大学大学院をへて、イタリア歴史的都市再生の研究で工学博士(京都大学)。国際連合地域開発センターを経て、1993年から京都府立大学、2016年副学長、2022年名誉教授、2022年から関西国際大学教授。国際記念物遺跡会議(ICOMOS)国内委員、京都市景観まちづくりセンター理事、(特)京都府地球温暖化防止活動推進センター理事、(特)京町家再生研究会理事など。



彦根城原形全景図/上田道三(昭和33年・彦根市文化財課所蔵)

彦根城 世界遺産 登録推進 シンポジウム

東京シンポジウムⅡ
世界史の中の江戸時代
—江戸時代、大名と城は
如何に独創的であったのか—

日時 | 令和6年1月28日(日) 13:00-16:20 (開場12:30)

場所 | 建築会館ホール(東京都港区芝五丁目26-20/JR田町駅、都営地下鉄三田駅から徒歩約3分)

入場無料(先着100名/事前申込制)・オンライン同時開催(事前申込制)

彦根城の世界遺産登録については、平成4年に暫定リストに記載されて以降30年以上が経過した。その間、姫路城との差別化や、資産の確定などの課題を整理し、現在、ユネスコの事前評価を受けるに至っている。今回のシンポジウムにおいては、彦根城の顕著な普遍的価値(OUV)を広く発信するとともに、世界史的な視点で議論を深めることを目的とする。17世紀に成立した、独特で稀有な存在である大名による統治の仕組みを象徴的に表す城、その代表としての彦根城。世界における多様な政治や文化の一つの姿を示すとともに、その価値を共有し、世界に発信します。



主催 / 彦根城世界遺産登録推進協議会 共催 / 滋賀県・彦根市・滋賀県教育委員会・彦根市教育委員会
後援 / 一般社団法人日本イコモス国内委員会・一般社団法人日本建築学会

-彦根城世界遺産登録に向けて-

徳川期の日本は、「バクス・トクガワーナ」と呼ばれ、世界でも注目される長期の安定を実現した時代であった。この安定を実現し得た大きな要因の一つとして、「大名」による地方統治の姿がある。大名は将軍から任命され領地を預けられた一方、独立した権限と財源を持つ独特の存在であり、大名が政治の拠点とした城が、その政治の仕組みを支え、それを永続させるうえでの大きな効果を生み出したことに一つの答えを求めることが可能である。

こうした大名が政治の拠点とした城は、二つの特徴から説明できる。

一つは、「内部における機能と集約性」である。城という堀や石垣、櫓などによって嚴重に取り囲まれた内部には、大名の居住空間であるとともに政治の意思決定や儀礼の場でもある御殿と、政治の意思決定に参加する全ての重臣達の屋敷が秩序を持って配置された。そこに住まう重臣たちは御殿の一室に集まり、合議によって政治の方針を定め、別の部屋で待つ藩主がこれを裁可した。また、家臣たちは定期的に御殿の広間に集まり、社会を安定に導くべく、政治の方針を共有し、相互の役割を確認しあうための儀礼を行った。時には、共に能を鑑賞し、あるいは、城内の庭園での文武の文化活動を通して、必要な教養を高め、政治のあるべき方向性を確認しあった。すなわち、城の内部に集約された家臣と施設によって形成された政治拠点は、まさに、大名による政治の仕組みの在り方を、形として表現するものであった。

今一つの城の特徴は、「外部からの象徴性と隔絶性」に求められる。城は、堀、石垣、櫓によって外部から完全に隔離されたことによって、その内部に形成された政府が、在地の個別的

な利害、他国や宗教などによる不要な干渉からの独立を確保させ、公平な政府の運営を実現した。また、それを可視化することによって、その政治が不可侵であることを人々に深く印象付けた。同時に、天守を中心とする、櫓、堀、石垣が折り重なる象徴的な外観は、遠くからも望むことが可能であった。過去にはそれが強い武力に裏打ちされた権力を想起させるものであったとしても、公正、公平な政治を執り行うことによって、やがて、安定した社会を実現するための権威と責任を表象するものとして受け入れられるようになり、その存在は大名による政治が長く安定的に継続することに貢献した。

すなわち、徳川期の日本において政治の拠点として利用された城は、その構造と外観によって、大名による政治の仕組みを表し、その政治を遂行する機能によって、その長く継続する統治に貢献していたのである。

本来、徳川期の日本に営まれた180の城は、同じようにこのような二つの特徴を備えていた。しかし明治時代の廃城令や、第2次世界大戦の戦火、そしてその後の開発などを経て、多くの城はその原型を失った。その結果、「17世紀から2世紀半にわたって安定した社会秩序を形成・維持した徳川期の日本における大名による統治の在り方」を、次の3点「①外部との強い隔絶性を形成する堀、石垣が完全に保存されていること」、「②天守や櫓、堀、石垣によって形成される象徴的な外観が体感できること」、「③御殿と重臣屋敷に係る全ての考古学的遺構が保存されていること」によって、完全な形で伝えることができるのは、現存では彦根城が唯一となったのである。



御城下惣絵図(彦根城博物館所蔵)



上空から見た彦根城

- プログラム -

13:00 開会挨拶

13:05 基調講演「彦根城の顕著な普遍的価値の所在」 稲葉 信子氏 筑波大学名誉教授

13:30 講演「徳川期日本における大名による統治と城郭」 母利 美和氏 京都女子大学教授

14:00 講演「近世東アジアにおける統治とその拠点」 杉山 清彦氏 東京大学教授

14:30 - 休憩 -

14:45 講演「近世ヨーロッパにおける統治とその拠点」 古谷 大輔氏 大阪大学教授

15:20 パネルディスカッション

パネリスト

母利 美和氏

コメンテーター

稲葉 信子氏

コーディネーター

宗田 好史氏

関西国際大学教授
京都府立大学名誉教授

パネリスト

杉山 清彦氏

パネリスト

古谷 大輔氏

16:20 閉会

シンポジウムの参加申込について -会場参加・オンライン参加共通-

申込期限1月24日(水)

【ネット申込】 応募フォームから同伴3名までお申込みいただけます。フォームに必要事項をご記入ください。
応募フォームは右記QRコードか下記URLから。
Peatixアカウントにログインするか、新規登録でPeatixアカウントを作成してお申込みください。
<https://hikonejo-symposium-tokyo.peatix.com/>

【ハガキ申込】 1/24(水)必着。参加方法(会場・オンライン)・代表者の氏名・3名までの同伴者の氏名・メールアドレス(オンライン参加の場合は必ずご記載ください)・配慮が必要な方はその内容を記載の上、お申込みください。

※会場参加については応募者多数の場合は先着順となります。オンライン参加に定員はございません。

※オンライン参加者にはPeatix上のメッセージ(ハガキ申込の方は記入されたメールアドレス宛にメールを送付)にて、参加案内(LIVE配信先のURL)と資料のダウンロード方法を送信いたします。

※本シンポジウムの内容は後日、滋賀県文化財保護課公式You Tubeチャンネルで配信予定です。

【お申込・お問合せ先】

〒520-0818 滋賀県大津市西の庄19-10リンクスビル 株式会社エフエム滋賀 彦根城世界遺産登録推進シンポジウム係

☎エフエム滋賀問合せTEL 077-527-0814(平日9:00~17:00)

